

大学運動部活動における環境が部員のモチベーションに与える影響に関する研究

学生氏名 福田 生喜

指導教員 教員氏名 那須 清吾

研究背景

大学運動部活動では、競技力の向上に加え、規律ある行動や主体的な参加が求められている。しかし実際には、私語や遅刻、参加率の低下、活動に対する消極的な姿勢といった課題を抱える部活動も存在する。これらの問題に対し、規則の厳格化や指導の強化によって改善を図る試みが行われてきたが、過度な統制は部員の心理的負担を高め、モチベーションを低下させる可能性も指摘されている。そこで本研究では、部員個人の意識だけでなく、部活動を取り巻く環境要因に着目する必要があると考えた。

研究目的

本研究の目的は、大学運動部活動における環境要因が部員のモチベーションに与える影響を明らかにすることである。特に、部員が認知する「規則の厳しさ」「小集団閉鎖性」「主将の厳しさ」「部の雰囲気」の4要因が、モチベーションにどのような影響を及ぼすのかを実証的に検討することを目的とした。

研究方法

大学運動部に所属する部員を対象に、質問紙調査を実施した。調査では、「規則の厳しさ」「小集団閉鎖性」「主将の厳しさ」「部の雰囲気」「モチベーション」の5要素について、5件法尺度を用いて測定した。得られたデータをもとに、モチベーションを目的変数、4つの環境要因を説明変数とする重回帰分析を行った。

分析結果

重回帰分析の結果、回帰モデル全体は統計的に有意であり、環境要因が部員のモチベーションを一定程度説明していることが示された。個別の要因では、「規則の厳しさ」および「小集団閉鎖性」は有意な影響を示さなかった。一方、「主将の厳しさ」はモチベーションに対して有意な負の影響を示し、「部の雰囲気」は有意な正の影響を示した。特に、「部の雰囲気」は最も強い影響力を有していた。

考察・結論

本研究の結果から、大学運動部活動における部員のモチベーションは、規則や集団構造といった制度的要因よりも、主将の関わり方や部内の雰囲気といった対人的・心理的要因によって大きく左右されることが明らかとなった。特に、良好な部の雰囲気は、部員の心理的安全性を高め、活動への意欲や継続参加を促進する重要な要因であると考えられる。以上より、部員のモチベーション向上には、過度な統制ではなく、支援的なリーダーシップと良好な活動環境の形成が重要であると結論づけられる。